



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no.74

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

山勝電子工業株式会社 代表取締役社長
かなくつ
金究 武正 様

川崎市高津区に本社を構える山勝電子工業株式会社。高密度プリント配線基板回路設計・製作をはじめ、電子機器やシステム機器の開発設計などを手がけ、日本の電子機器産業を支えています。創業者である金究武正氏にお話を伺いました。

■時代のニーズに応じて 新技術に挑戦

——出身地は新潟県だそうですね。

豪雪地帯の南魚沼出身です。7人きょうだいの末っ子で、中学の時に父が亡くなった後は長兄が親代わり。高校卒業後、上京して叔父の機械工具関連の商社で働き始めました。2年ほど勤務したのですが「別のことをしてみたい」と思い、プリント配線基板の製造メーカーに転職しました。学生時代、アマチュア無線やラジオ製作をやっていたので、モノ作りが好きだったせいでしょうか。その繋がりで設計会社も経験し、1973年、仲間と3人で独立しました。

——70年代前半、プリント基板事業はあまり知られていなかったと思われそうですが。

家電の中に組み込まれてはいますが、一般の人は内側を見ませんから（笑）。

70年代後半になるとPCや家電など、あらゆるところに使われるようになりました。

——成長分野に目をつけたのですね。

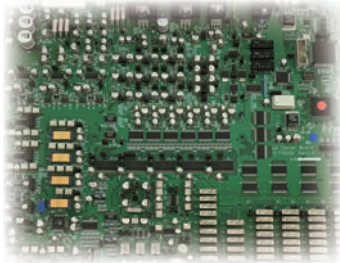
あまり深いことは考えていませんでしたが、半年もすると、どうしても夢や目標が出てきます。そこで「10年以内に業界の5指に入る」という目標を立てました。その目標達成のため、社員を増やし、自社社屋を持ち、機械設備を入れる。それを仲間2人に話したら「できるわけない」と大笑いされて。彼らは途中で別の道へ進みましたが、9年11か月目に念願の自社社屋を構えることができました。

事業拡大の最初の契機は75年、故郷の新潟・六日町での情報センターの開設です。地元では、長男は都会で学んでいても、跡取りとして実家に戻るのが普通でした。けれども専門を活かせる企業がないため、関係のない職種につくことがほとんどでした。ならば「設計会社を作れば優秀な

人材が集まるのでは？」と考えたのです。当時、出始めのファクシミリを買い、新潟と神奈川でやりとりをしました。今と違って精度が低かったのでトラック便も併用です。これも現在と違って流通革命以前。夕方6時に運送会社の営業所に持参し、受取りは翌日昼、自分で営業所に行くという方式です。これは不便な反面意外なメリットも産みました。時間の制約から納期管理が徹底し、ミスしない体制作りができました。

——次の契機は？

CADの早期導入です。80年代、手書きの方が速くて正確と言われた頃、いち早く取り入れました。これが功を奏し、国産初のロケットH-1型のエンジン制御部分を担当することができ、他の仕事にも大きく繋がりました。本格的にCADに切り替えるため86年に新潟・長岡情報センターを設立しました。



他社との差別化は最新機器の導入 最先端を担う独自技術が、最大の武器。

——なぜ最新機器を導入するのですか？

最新の機器を導入して新たな分野や難易度の高い仕事にチャレンジすることにより技術者は結果として新たな技術や知識、経験が得られ、やりがいを持ちます。そのようにして成長する人材を育ててこそ安定した量の仕事ができ、売上も上がります。また大手と同じレベルの最新機器を導入した中小企業は、同業他社がひしめく場所ではなく、違った土俵で勝負できます。資金に限りのある中小企業にとっては大切なことです。

■できること、できないことの見極めが肝心

——89年には新潟開発センターを設立されていますが、こちらの意図は？

時代的にプリント基板は成長し続けていて、各基板製造メーカーは新規参入も含めて設備投資も積極的でした。他社のように大規模な工場を作る体力はなかったのですが、設計から生産までを一貫して行えば設備投資も少なく、特に多品種少量産品・中量産品についてのニーズは高く、電子機器の受託設計・製造サービス(EMS)事業はそんな発想から始まりました。

新しい分野に参画することで、取引先の技術開発部門と深く関わることになり、新たな開発につながるがあります。当社にきた依頼の一つが、本格普及が始まりつつあったDVDの重要なパーツである青色レーザーダイオードの検査・評価試験機レーザーダイオードパルス

エージングシステムの開発です。これを機に装置の製造部門を横浜に設立しました。

——劣化したフィルムを4Kデジタル化する装置も開発されていますね。

OMEGA SYSTEM (オメガシステム)は、医療の遠隔診療に使われる画像圧縮システム開発からの関連事業です。例えば広島・長崎の原爆被害を映した貴重なフィルムは劣化が進み、保全のための早急なデジタル化が必要でした。フィルムは時間とともに劣化しますが、デジタル化すれば約300年は安心ですから、これからどんどん必要になる技術だと思っています。

——常に成長分野に目をつけています。

年間400~500件の開発プロジェクトがありますが、製品化はほんの一部。けれども、この中からニーズが見えてきます。もちろん現場の反対や自信の有無、体制が整っていないなどで諦めた開発もあります。それが今、大きく花開いていたりすると苦い思いがよぎります。お互い口に出すことはありませんが、開発者も同じ気持ちを共有していると思います。

山勝電子工業株式会社

本社
〒213-0013
神奈川県川崎市高津区末長1-37-23
TEL:044-866-2411 FAX:044-877-0755
<http://www.yamakatsu.co.jp>

六日町情報センター(新潟県南魚沼市)
長岡情報センター(新潟県長岡市)
新潟開発センター(新潟県新潟市)
大阪営業所(大阪市港区)
横浜工場(横浜市港北区)
仙台R&Dセンター(宮城県名取市)

——大きな決断は今後も続きそうですか？

だいたい10年に1回くらいのタームで転換期がきます。持っている技術からできること、多少無理をすればできること、どう頑張ってもできないことを見極め、成長分野に向かって舵を切る。未来の芽を育てる仕事は収益が上がっている時期にやっておかないといけません。安住し続けては先細り。常に新しいものにチャレンジして変化していく必要があります。それが社員と揉める部分でもあるのだけれどね(笑)。



ブルーレイとの出会いから20年後の2010年、LED照明YAMA LIGHTという初の自社製品を発売。自然な色合いの光が特長です。川崎市の低炭素社会に貢献する「低CO₂川崎パイロットブランド」に選出。かながわ産業Navi大賞2012大賞を受賞しています。

レーザーダイオードパルスエージングシステムは2002年神奈川県工業技術開発大賞奨励賞を受賞。

<インタビューを終えて>

素人にはわかりにくい電子機器分野ですが、とても明快な説明をしてくださり、理解が進みました。人と語らうことが好きで、特にお酒が入るといいアイデアが浮かぶようです。書き留めている手帳には、数多くのヒントが眠っているようです。趣味のゴルフは月に4~5回。カートに乗らず歩くようにして体力維持に努めているとか。72歳という年齢を全く感じないパワーに満ちた方でした！